

京都大学大学院 人間・環境学研究所

奈文研が京都大学大学院人間・環境学研究所の客員講座（環境保全発展論）をうけもってから5年がすぎた。この5年のあいだに提出された修士論文は、以下の10篇を数える。

- ①宮路淳子「縄文時代の西日本における植物性食料貯蔵施設について —食糧貯蔵と生業形態との関わり—」（指導教官・松井章、1996年提出）
- ②坂田昌平「黒龍江省朝鮮族の居住空間に関する研究 —寧安市瀑布村でのフィールドワークから—」（指導教官・浅川滋男、1997年提出）
- ③北田裕行「律令制下における井戸祭祀の研究」（指導教官・町田章、1997年提出）
- ④石毛彩子「国分寺の維持経営 —東国国分寺跡の分析を中心にして—」（指導教官・山中敏史、1998年提出）
- ⑤大山見司「縄文時代の瀬戸内における水産資源の利用 —愛媛県江口貝塚出土の動物遺存体の分析を中心として—」（指導教官・松井章、1998年提出）
- ⑥小暮律子「材質および成形技法からみた古代ガラスの流通に関する研究」（指導教官・沢田正昭、1998年提出）
- ⑦神野 恵「伐採斧の出現とその背景 —先史社会の用途論—」（指導教官・光谷拓実、1999年提出）
- ⑧田邊由美子「関東地方における縄文時代後期の交易・交流の様相 —特に南房総地域と三浦半島・東京湾沿岸地域との関係について—」（指導教官・松井章、1999年提出）
- ⑨林 香織「弥生時代における動物利用の展開 —イノシシ類の飼育問題を中心に—」（指導教官・松井章、1999年提出）
- ⑩和田 浩「古代壁画の保存科学的研究」（指導教官・沢田正昭、1999年提出）

1998年度末に修士論文を提出したのは⑦～⑩の4名で、無事全員に修士号が授与され、うち3名が博士課程に進学した。博士課程に在籍する大学院生はあわせて7名となり、いずれの院生も博士論文の作成や留学などに意欲を燃やしているが、修士課程の学生も含めて、就職問題が大きな障壁となりつつある。 (浅川滋男)